タイトル：姉は姉
学校名・学年：関西創価高等学校 2 年
名前：北原　りりん

（本文）
　私は生まれたときから障がいを知っている。
　私には超重度の知的障がいを持つ姉がいる。姉は今 22 歳で、知能は約 2 歳 7 ヶ月くらいだ。そのため、姉は会社ではなく生活介護事業所で毎日過ごしている。
　私は小さい頃から姉がいることが当たり前だった。そして「障がい」というものを知っていたわけではない。でも、姉にはできないことがたくさんあるということは、知っていた。例えば、姉は一人でご飯を食べることができない。一人でお風呂に入ることもできない。「ドアを閉めて」を言っても閉められない。「もう行くよ」と言っても、駄々をこねて大声を出してその場から動かない。正直イライラする。でも、私はそれを障がいだからという理由で姉を嫌うことはない。というより、私は姉のことを「障がい者」として考えることがない。私にとって姉は、障がい者である前に、私の姉だからだ。
　姉は挨拶ができる。人の名前を覚えることができる。人を区別することもできる。私のことを妹だと分かっている。私が泣いていたとき、ティッシュを持ってきてくれたこともある。私が幼い頃お化けを怖がっているときに、一緒にいてくれたこともある。私はそういう姉は好きだし、自慢のお姉ちゃんだと思っている。もちろん、ずっと好きなわけじゃない。私は姉に対して、うざいと思うこともある。鬱陶しいと思うこともある。何度言っても分かってくれなかったり、同じことを何回もされたりすると、イライラする。当たり前だが私も人間なので、いつも優しくしていられるわけではない。姉に暴言を言ったこともある。でも姉は、私が言った言葉の意味を理解していない。ただ、声の大きさだとか、声色だとか、そういうことを感じ取っている。そして私よりも大きな声で怒鳴ってくることがある。そうなると、私はさらに腹が立つ。「なんで分かってくれないの」とか、「もういいから」と思うこともある。私が怒っているのに、意味も分からず笑っていることもあって、そういうときは本当にうざいと思う。
　姉のことが嫌いだと思うこともある。でも、姉の行動の一部が嫌いなだけだ。例えば、障がいのない人だって、友達や家族のことを「今の言い方は嫌だな」とか「この行動は嫌いだな」と思うことはあると思う。それと同じだ。姉の全部が嫌いなわけではない。「今の行動賢いな〜！」と思うことだってある。なのに、「障がい者だから優しくしなきゃいけない」と言われてしまうと、少し違う気がする。もちろん、障がいのある人には、その人に合った支援が必要だと思う。姉も一人ではできないことがたくさんあるから、周りの人の助けが必要になる。それは当たり前のことだと思う。でも、私は世の中の「障がい者のためにこういうことをしよう」という考え方が、全部正しいとは思えない。例えば私は「障がい者」という言葉の「がい」をひらがなにすることについても、正直そこは別に重要ではないと思った

りもする。

もちろん、その表現に変えることで嫌な思いをする人が減るのであれば、それは意味のあることだと思う。でも、文字を変えたからといって、その人を見る目まで変わらないと思う。「障がい者だから特別に優しくしよう」「障がい者だからこうしてあげよう」そうしてなんでも特別にしてしまうことのほうが、逆にその人を「普通の人とは違う存在」にして異物認定されている気がして嫌いだ。

障がいがあるから特別な支援が必要なのは分かる。でも、だからといって、その人自身まで特別な存在として扱いすぎる必要はないと思う。姉だって皆みたいに喜怒哀楽があるし人のことを覚える。誰かが泣いていたら気にする。そこは、人間である限り私達と変わらないと思っている。もちろん、できることには大きな違いがある。姉には私たちが当たり前にできることができない場合がある。だから助ける必要がある。でも、「できないことが多い＝人として違う」ではないと思うし、大変なのは私達家族だって大変だ。「障がい者本人だけにスポットライトを当てすぎるな。」と思う。

私は、障がいのある人をなんでも褒めたり、何でも許したりすることが優しさだとも思わない。私だって姉に怒る。喧嘩もする。嫌いだと思うこともある。それでも姉は私の姉だ。それ以上でも以下でもない。そして、私は姉のこの行動が嫌いだから嫌いだと思うことがあるだけだ。姉には姉の性格があって、好きなことがあって、嫌いなことがあって、笑うことがあって、怒ることがある。だから私は、障がいがある人を見るときにも、「障がい者だから」と最初から決めつけるのではなく、その人を見てほしいと思う。必要なときには助ける。でも、必要以上に特別扱いしない。できないことがあれば支える。でも、その人ができることまで「どうせできない」と決めつけない。ただそれだけのことだ。正直、姉との生活は楽しいことだけではない。イライラすることもあるし、もう嫌だと思うこともある。綺麗事だけじゃない。私は姉を何でも受け入れられる聖人君子ではない。嫌いだと思うことがあっても、姉は姉だから好きだ。

私は、障がいのある人とない人を完全に同じように扱えばいいと言いたいわけではない。必要な支援が違うのだから、同じではいられない部分も当然ある。ただ、支援が必要なことと、人として違うことは別だと思う。

姉と暮らしているからこそ、私は障がいについて考える機会が多かった。それは変わらない。そして変わらず姉にきっとイライラする。喧嘩もすると思う。でもそれはただの兄弟喧嘩だ。だから障がい者を、私達を勝手に分かった気になって「可哀想な人間」だと決めつけるな。それを決めるのは私達当事者だ。勝手に妄想して私達の人生を悲劇にするな。